

5. 自然災害とのつき合い方

自然災害は自然現象と人間がいる限り、かならずついて回ります。なぜなら、自然現象は巨大なエネルギーを有する支配者がゆえに抑制も抑止もできないからです。それゆえに、自然災害に出くわさないためには、自然現象を早期に、正しい情報で得ることが大切であります。それには基本的な知識があることが望ましいと思います。

そして、災害となる現象の正面攻撃を避けて、先を読んで、かわすこと（避難）しか方法がありません。つまり、がっぷり相撲にならないことです。

地球は太陽からエネルギーを供給され、内部からもエネルギーを受け、地表ではさまざまな休みのない運動が稼動している中で、人間はその地表において何とか命をつないでいるという状況にあります。自然とは動なる世界であって、そこにはさまざまな正負のバランスが働いていることとなります。そのような自然と人間がどのようにつき合っていけば、持続可能で安定した環境が維持できるかについては、自然のシステムについての知識を得ることが重要なこととなりますが、システムは簡単に理解できないほどに複雑であります。しかし、これまで知りえた中で、少なくともシステムに付加を与えるような、持続に支障があるようなことはしてはいけないことは付き合いの基本です。それでは、付き合いが適正なのかどうかは難しく、人と人との付き合いでも意図が無くても相手にいやな思いをさせていることはわれわれが多く経験していることです。また、自然は自然現象、ひいては自然災害という形でシステムの一部を教えてくれています。人間がそれを敏感に感じるができるかどうかです。

ある意味で、自然災害は、自然の利用の仕方によるところも多く、自然のシステムを無視した人為的な行為には先を見ての実施が必要があります。

科学技術が進展する近代化以降では、ややもすると人間は自然をコントロールできるのかもしれないという傲慢さが無意識の中に芽生えてきていたかもしれませんし、自然は、それこそ回復力があるものだと考えてきたともいえます。自然は、極めて精細、精密、精巧、精緻なもので、敏感な反応力がありますので、微調整の域を超えると、全体系に大きな変化が現われるということだと思います。

われわれが生活している地球の表面では、気圏、水圏、陸圏と呼ばれるもので構成され、それぞれは様でなく、資質や性状が異なるものが、見た目は一様でもジグソーパズルのようになっています。パズルの接触面、つまり境界はフレキシブルで異質な関係でバランスを取っています。そのような中で、大きな変化は常に境界部の激しい差異になるために変化が起きやすく、台風や地震といった巨大災害になりやすいものは、この境界での出来事がそもそもの始まりということになります。

このような地球のダイナミクスに対して抑制も抑止もできませんので、その結果に対してどう対応するのか、そしてそのダイナミクスに負荷を与えるようなことは避けると言う生活環境を維持する暮らしが求められているのだと思います。そうすることで、自然災害をなくすことはできなくても、これまでの経験や科学技術を駆使して、影響を最小化する

ることを実践していく必要があります。それにしても、まだまだ知識も工夫も必要ではありますが、持続可能な地球が安全で安心して人が暮らせるところを持続していく義務がいまの世代にはあります。自然災害だけを取り上げて、一時の対症的防衛策を考えても、それを上回る力が地球にはあるわけで、対抗したり抵抗することは無為であり、むしろ、システムに従順の方が得策であろうと思われま